

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100249		
法人名	社会福祉法人三篠会		
事業所名	グループホーム白木の郷		
所在地	広島市安佐北区白木町小越230番地 (電話) 082-828-0123		
自己評価作成日	平成25年10月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年11月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・時間が空けば、散歩がてら近隣へ買い物などへ出かけるふらっと外出を行っている。 ・併設施設の診療所と医療情報を交換しながら支援を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム白木の郷（以下、ホーム）は、安佐北区白木町の自然豊かな環境の中にあります。社会福祉法人三篠会を母体法人とし、法人がこれまでに培ってきたノウハウを活かしながら、「白木の郷キャンパス」として地域との繋がりを大切にした運営に努められています。地域行事にも積極的に参加したり、日常的な個別での外出支援を増やしたり、これまでの関係や繋がりが途切れない支援に努力されています。 今年9月には、ホームで敬老会を実施し、自治会長の呼びかけの協力を得て、地域から20人ほど参加があり、和菓子とお茶を入居者と一緒に楽しむなどの交流も行われました。 日々の暮らしの中で入居者の思いを汲み取り、「できること」が生きがいに繋がるよう支援されています。
--

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、職員全員と共有している。また、その理念を軸にしたケアを行っている。	開所間もなく職員で協議して作成した事業所独自の理念には、法人理念の一部でもある「ここへ来てよかった」を入れ、法人理念を基盤にした理念を掲げておられます。理念をスタッフルームに掲示し、意識づけに取り組まれています。新任職員へのオン・ザ・ジョブトレーニングでは、経験豊富な職員が理念を組み込みながら指導等に努められています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設の行事(祭りなど)や地域の行事にお互いが参加できており、地域との交流をはかっている。	自治会長との関係が築かれ、七夕飾りや畑の芋の植込み、収穫などの声かけもあり、職員と入居者が一緒に手伝わられています。また、地域で行われる毎年の農業祭や神社の祭りにも参加し、地域住民との交流を図っておられます。今年9月には、ホームで敬老会を実施し、自治会長の呼びかけの協力を得て、地域から20人ほどの参加がありました。敬老会では、フラダンスを観たり、和菓子とお茶を入居者と一緒に楽しんだり交流も行われました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や敬老会を利用し、食事を一緒にするなど交流することで、認知症理解の輪を広げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度実施している。近況報告や事故報告についてなどGHで起きていることを随時報告している。そこで、意見が出ることもあり、サービス向上のために参考意見として取り入れている。	会議には、区職員、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長の参加を得ているほか、入居者、家族5～6人の参加もあります。ポンプ式の手洗い石鹸ではなく、入居者が使い慣れた固形石鹸を使うことの提案が出されるなど、日常生活についての意見が積極的に出されています。	ホームでは、公民館館長や消防署員とも関係性を築いておられます。今後は、さらに幅広く活発な意見交換が行えるよう、公民館長や消防署員の参加の呼びかけを行い、会議メンバーの間口を広げる工夫をするなど、会議の持ち方について検討されることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	白木地域包括支援センターと情報交換を行い協力関係を築いている。運営推進会議には、行政担当者や包括センターのケアマネや社会福祉士に参加してもらっている。	運営推進会議に区職員や地域包括支援センター職員の出席があり、参加者の意見やホームの現状を直接理解してもらう機会となっています。地域包括支援センターとは、日常的に情報共有され、支援に繋がった事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠を行わず、身体の手束も行ってない。身体拘束ゼロを目指して、処遇会議などの場を利用して職員の意識統一をはかっている。	ホームでは、身体拘束に関する理念を掲げ、玄関に掲示されています。職員は、白木の郷キャンパスでの研修や処遇会議で身体拘束についての理解を深めておられます。日中は施錠せず、職員は見守りと入居者の習慣や思いをしっかりと把握し、安全面に考慮しながら自由な暮らしが提供できるよう支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員に対する権利擁護の研修などは行っていない。新任職員については、外部の研修にて権利擁護・法令遵守などについて学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は、相談員と計画担当者が重要事項説明書を用いて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を利用し、家族の意見を聞く場を設けている。そこで疑問をもったことやおかしいと感じたことには随時指摘を頂き、改善を図っている。	運営推進会議には、多くの家族が出席し、会議後の座談会でも意見や要望を聞かれています。年1回、顧客満足度調査アンケートを法人全体で実施し、改善点などは運営に反映するよう努力するとともに、報告書を家族に公表されています。家族からは、おむつの処理方法について意見が出され、早急に改善するなど意見を反映されています。また、行事等に家族の参加を呼びかけられています。	
		○運営に関する職員意見の反映		職員の気づきや提案などは、毎日の朝礼	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回スタッフ会議にて職員間で意見の交換を行っている。	や連絡ノートで情報共有されています。また、リーダーが新任職員と個人面談を実施し、意見や提案が出しやすい環境を整備されています。職員からは、ホームで実施する敬老会に地域住民への呼びかけの提案が出され、実践に繋げておられます。職員一人ひとりの特技を活かしながら支援に繋げておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとに個人目標を設定し、上司とその目標についての評価を行っている。その場も、意見交換の場として機能している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○JT委員会を施設単位で設置している。新任職員に先輩職員がついて業務指導などを行う。また、外部研修に参加し報告会用紙にて振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流はできていない。外部研修などを利用して、他事業所との交流を図っている状態である。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に事前面接を行い、在宅での生活や施設であれば施設での生活について把握している。また、困り事や不安なことがあるか傾聴するようにしている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係	入所前に事前面接を行うことにより、在宅		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	での苦労やこれから入所に向けての不安などを傾聴し、その気持ちを共有するようにしている。また、運営推進会議や外出行事にも参加のお願いをして関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とご家族様の意見・要望を聞きながら各専門職が連携して支援を行っている。特に初期は新しい環境に馴染めないでいる方が多いため、様子観察や声掛けに力を入れ、安心できるように配慮したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様のペースを尊重することを第一に自由に過ごせるように配慮している。また、共同生活を行うことで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や行事などに参加して頂くために、月に一度行事計画表を送付している。また、運営推進会議に多くのご家族様に参加をして頂くために、週末と平日で交互に開催している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様のほとんどが白木町の方であるため、地域の方と一緒に敬老会を行ったり、地域の祭りなどにも参加させて頂いている。また、ふらっと外出を増やすことにより、地域に出る機会を増やし関係継続に努めている。	家族や知人の訪問があります。家族の協力で、正月には自宅に帰る入居者もおられます。また、隣接の法人施設に顔見知りの入所者がおり、職員が付き添い行き来されています。職員は、家族や入居者が住んでいた近隣住民からも情報を得て、馴染みのある場所や人との関係が途切れないよう支援されています。	
		○利用者同士の関係の支援			

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりのペースを尊重しながらも、お互いに交流が図れるように配慮している。洗濯ものに干したり、洗いものを一緒に行うことで助け合いながら生活を送って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GHでの対応が難しくなり、契約を終了した方でもご要望があれば相談に応じ退所先の手配などを行う。また、併設施設に転所するケースも多く持続した支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、ご利用者様の気づきや変化について共有することに努め、月に一度の処遇会議にて全体で協議し個別ケアについて話し合いを行い、ケアについての変更や改善を行っている。	職員は入居者と1対1で会話できる入浴時間を大切にし、入居者の思いを聞き取った情報を職員全体で共有されています。思いの表現が難しい入居者には、スキンシップを図りながら、その日その時の表情や様子で思いを汲み取っておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接にて生活歴を把握するように努めている。また、ご家族様に居室の馴染みのものがあれば持ってきて頂くようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	併設事業所の看護師と情報を共有しながら体調管理を行っている。一人ひとりと関わりながら、気づきがあればその都度職員間で話すようにしている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング		1 居宅サービス担当者職員を定め、2 か月ごと	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	処遇会議にて、気づきや意見交換を介護従事者同士で行い、主治医や看護師の意見も取り入れながら多職種連携しながら計画を作成している。また、ご本人様の希望やご家族様の意見や要望も取り入れている。	入居者ごとに担当職員を決め、3か月ごとにモニタリングを実施されています。計画作成担当者を中心に、職員の意見を取り入れながら現状に即した介護計画を作成されています。また、職員全体が入居者一人ひとりの計画を確認しやすくするため、ファイリング方法も工夫されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各々に個人記録を作成している。業務日誌や連絡帳も活用しながら情報共有を行い、日々のケアへとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設事業所を活用することで、ご利用者様・ご家族様の要望やニーズに応えられるように柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の生活歴や特技・趣味を把握し、公民館のクラブ活動にも参加している。他にも、農業に携わっていた方も多く、GHの畑を作りなども手伝ってもらったり、地域の方の畑作りにも参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様より希望の病院へ伺い、できるだけご希望の病院に受診を行うように努めている。	希望するかかりつけ医による適切な受診ができるよう支援されています。受診には、職員が付き添われています。2週間に1回、協力医療機関による往診があります。また、週1回は歯科による往診も支援されています。	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設事業所の看護師と情報を共有しながら体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、ご家族様に状態確認の電話を差し上げたり、医療機関と連携をとるように努めている。退院後は、入所調整を速やかに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合には、併設事業所に転所して頂くか、他医療機関・施設に紹介を行っている。	ホームの方針を入居時に家族へ説明されています。また、建物の構造から、車椅子での生活が不便なため、兆候がみられたら他の施設へ紹介されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や外部研修を通じて、急変時や事故発生時の対応について学ぶ場を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の消防・避難訓練を行っている。そのうちの1回は、地域の方にも参加して頂き、火災時の避難誘導のシミュレーションを実施している。	想定される災害は、火災、地震、土砂災害です。年2回の訓練は、隣接の施設と合同で実施し、消防署の立ち会いもあります。また、夜間を想定した訓練も実施されています。地域と防災協定を締結し、訓練に地域住民の参加もあります。地域住民には、災害時における避難の手伝いや見守りなどをお願いされています。	ホームの建物が山に面し、土砂災害も想定されます。今後は、現在の地盤状況を確認するとともに、土砂災害時における対応について消防署などへ相談されることを提案します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保		入居者との会話は敬語で話すなど徹底さ	
--	--	------------------------	--	--------------------	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排せつのケアなど日常のケアや、業務日誌も敬語での記録を心がけプライバシー保護に努めている。	れています。また、日常日誌も敬語で記載するなど、尊厳を大切にした対応を職員全体で意識づけられるよう取り組まれています。入居者の個人記録などは、スタッフルームの目に触れにくい場所へ管理するなど、プライバシーの確保にも配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけご本人様が自分で決定して頂けるように配慮し、コミュニケーションを図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様のペースを尊重することを心がけ、ご本人様の意志を尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	意思疎通の可能な方には自分で服を選びきて貰っている。また、マニキュアを塗ったり爪などの手入れもご利用者様のご希望があれば行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には厨房で作ったものをGHまで運び、盛り付けや配膳などを手伝ってもらっている。時には、畑でとれたものを使い料理も行う。	食事は、隣接施設の厨房で作られたものをホームで盛りつけされています。月1回は「クッキングの日」「おやつの日」を設け、入居者と職員と一緒に料理やおやつ作りを楽しまれています。訪問当日はクッキングの日でもあり、入居者はそれぞれの能力を活かしながら手伝わっていました。また、花見には注文したお弁当を持って出かけたり、地域行事の農業祭でうどんを食べたり、外で食事を楽しむ機会も設けられています。	
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	施設の管理栄養士と連携をとり、栄養バランスがとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご本人様の様子を見ながら口腔ケアを促し実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排便チェック表を作成し、個々の排便周期を把握するようにしている。その周期に合わせた、声掛けやトイレ誘導を行っている。	トイレは，それぞれのユニットに2か所あり，手すりが設置されています。職員は，入居者のしぐさや様子を見ながら声かけによるトイレ誘導をされています。観察の積み重ねにより，日中紙パンツを使用していた入居者が現在は布パンツに変更になった事例もあり，一人ひとりの力を無理なく引き出せるよう努力されています。また，入居者の状況に応じて，夜間，居室にポータブルトイレを設置されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や、晴れの日には散歩に出かけてできる限り身体を動かしてもらっている。また、水分補給にも配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	順番や日にちは決まっておらず、ご本人様に希望があるか聞いて入浴して頂いている。	風呂は個浴で，広い浴場となっています。3方向から介助可能な浴槽が設置されています。脱衣所にヒーターや扇風機が完備され，温度差に配慮されています。入浴は，入居者と職員が1対1でコミュニケーションを図る大切な時間でもあり，歌が好きな人と一緒に歌うなど，ゆったりと入浴を楽しめられるよう支援されています。	
		○安眠や休息の支援			

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室だけに限らず、玄関前のベンチや畳なども利用して頂いている。ご本人様が過ごしやすいスペースで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が服薬について把握するよう努めている。誤薬、服薬の忘れがないよう十分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	まず、趣味や特技を把握し、ご本人様にあった役割などを検討している。公民館活動、皿洗いや洗濯物たたみ、食事の準備などできることは出来るだけしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	誕生日にはご本人様の希望の場所へ外出を行っている。他に大型の外出行事もあるが、ふらっと外出を行い、近隣へ出かけることでより多く地域とつながりを持つ機会を増やしている。	今年度は、個別での外出機会を多く設け、一人ひとりの希望に応じられるよう努力されています。公用車で外出ができるように、法人で実施する運転講習にほとんどの職員が受講し、1対1での外出に取り組まれています。全体での外出計画も立て、紅葉狩りなどにも出かけておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者が少ない。そのため、施設側が立て替えてご本人様が希望するものを購入している。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様に協力して頂き、可能な方のみ実施している。正月には、全員がご家族様に年賀状を送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同スペースには、利用者の作品や季節を感じさせるもの（例えば秋なら外でひろった栗など）を配置し、家庭的な雰囲気を心がけている。	台所とリビングが一体的で、シェード調の天窓が設置され明るい空間となっています。ホーム内は、「大人の住む空間」を意識した空間づくりがされています。掲示物等もなるべく控え、ゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫されています。訪問当日は、ソファや椅子などでゆっくり寛いで会話を楽しんだり、テレビ鑑賞をしたりする入居者の様子が伺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳場所を設置して、一人になれる空間を作っている。まだ、殺風景であるため、居心地の良い雰囲気を変えるために話あっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の表札を自分で作成して頂いている。ご家族様に協力して頂き、馴染みのものを置いたり、ご本人様が好きなものを置いたりご本人様がくつろげる空間作りを心掛けている。	居室には、洗面台、エアコン、ベッド、タンス、カーテンが完備されています。入居者は、テレビや机、椅子など使い慣れた物を持ち込むなど、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	基本的には出来ることは自分でを心がけ、残存機能を維持できるように配慮した支援を行っている。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
			①ほぼ毎日のように

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、職員全員と共有している。また、その理念を軸にしたケアを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設の行事(祭りなど)や地域の行事にお互いが参加できており、地域との交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や敬老会を利用し、食事を一緒にするなど交流することで、認知症理解の輪を広げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度実施している。近況報告や事故報告についてなどGHで起きていることを随時報告している。そこで、意見が出ることもあり、サービス向上のために参考意見として取り入れている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	白木地域包括支援センターと情報交換を行い協力関係を築いている。運営推進会議には、行政担当者や包括センターのケアマネや社会福祉士に参加してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠を行わず、身体の手束も行ってない。身体拘束ゼロを目指して、処遇会議などの場を利用して職員の意識統一をはかっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員に対する権利擁護の研修などはない。新任職員については、外部の研修にて権利擁護・法令遵守などについて学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は、相談員と計画担当者が重要事項説明書を用いて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を利用し、家族の意見を聞く場を設けている。そこで疑問をもったことやおかしいと感じたことには随時指摘を頂き、改善を図っている。		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回スタッフ会議にて職員間で意見の交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとに個人目標を設定し、上司とその目標についての評価を行っている。その場も、意見交換の場として機能している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJT委員会を施設単位で設置している。新任職員に先輩職員がついて業務指導などを行う。また、外部研修に参加し報告会用紙にて振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交流はできていない。外部研修などを利用して、他事業所との交流を図っている状態である。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に事前面接を行い、在宅での生活や施設であれば施設での生活について把握している。また、困り事や不安なことがあるか傾聴するようにしている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係	入所前に事前面接を行うことにより、在宅		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	での苦労やこれから入所に向けての不安などを傾聴し、その気持ちを共有するようにしている。また、運営推進会議や外出行事にも参加のお願いをして関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とご家族様の意見・要望を聞きながら各専門職が連携して支援を行っている。特に初期は新しい環境に馴染めないでいる方が多いため、様子観察や声掛けに力を入れ、安心できるように配慮したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様のペースを尊重することを第一に自由に過ごせるように配慮している。また、共同生活を行うことで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や行事などに参加して頂くために、月に一度行事計画表を送付している。また、運営推進会議に多くのご家族様に参加をして頂くために、週末と平日で交互に開催している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様のほとんどが白木町の方であるため、地域の方と一緒に敬老会を行ったり、地域の祭りなどにも参加させて頂いている。また、ふらっと外出を増やすことにより、地域に出る機会を増やし関係継続に努めている。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりのペースを尊重しながらも、お互いに交流が図れるように配慮している。洗濯ものに干したり、洗いものを一緒に行うことで助け合いながら生活を送って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GHでの対応が難しくなり、契約を終了した方でもご要望があれば相談に応じ退所先の手配などを行う。また、併設施設に転所するケースも多く持続した支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、ご利用者様の気づきや変化について共有することに努め、月に一度の処遇会議にて全体で協議し個別ケアについて話し合いを行い、ケアについての変更や改善を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接にて生活歴を把握するように努めている。また、ご家族様に居室の馴染みのものがあれば持ってきて頂くようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	併設事業所の看護師と情報を共有しながら体調管理を行っている。一人ひとりに関わりながら、気づきがあればその都度職員間で話すようにしている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング	処遇会議にて、気づきや意見交換を介護		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	従事者同士で行い、主治医や看護師の意見も取り入れながら多職種連携しながら計画を作成している。また、ご本人様の希望やご家族様の意見や要望も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各々に個人記録を作成している。業務日誌や連絡帳も活用しながら情報共有を行い、日々のケアへとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設事業所を活用することで、ご利用者様・ご家族様の要望やニーズに応えられるように柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の生活歴や特技・趣味を把握し、公民館のクラブ活動にも参加している。他にも、農業に携わっていた方も多く、GHの畑を作りなども手伝ってもらったり、地域の方の畑作りにも参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様より希望の病院へ伺い、できるだけご希望の病院に受診を行うように努めている。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設事業所の看護師と情報を共有しながら体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、ご家族様に状態確認の電話を差し上げたり、医療機関と連携をとるように努めている。退院後は、入所調整を速やかに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合には、併設事業所に転所して頂くか、他医療機関・施設に紹介を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や外部研修を通じて、急変時や事故発生時の対応について学ぶ場を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の消防・避難訓練を行っている。そのうちの1回は、地域の方にも参加して頂き、火災時の避難誘導のシミュレーションを実施している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排せつのケアなど日常のケアや、業務日誌も敬語での記録を心がけプライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけご本人様が自分で決定して頂けるように配慮し、コミュニケーションを図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様のペースを尊重することを心がけ、ご本人様の意志を尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	意思疎通の可能な方には自分で服を選びきて貰っている。また、マニキュアを塗ったり爪などの手入れもご利用者様のご希望があれば行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には厨房で作ったものをGHまで運び、盛り付けや配膳などを手伝ってもらっている。時には、畑でとれたものを使い料理も行う。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	施設の管理栄養士と連携をとり、栄養バランスがとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、ご本人様の様子を見ながら口腔ケアを促し実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排便チェック表を作成し、個々の排便周期を把握するようにしている。その周期に合わせた、声掛けやトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や、晴れの日には散歩に出かけてできる限り身体を動かしてもらっている。また、水分補給にも配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	順番や日にちは決まっておらず、ご本人様に希望があるか聞いて入浴して頂いている。		
		○安眠や休息の支援			

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室だけに限らず、玄関前のベンチや畳なども利用して頂いている。ご本人様が過ごしやすいスペースで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が服薬について把握するよう努めている。誤薬、服薬の忘れがないよう十分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	まず、趣味や特技を把握し、ご本人様にあった役割などを検討している。公民館活動、皿洗いや洗濯物たたみ、食事の準備などできることは出来るだけしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	誕生日にはご本人様の希望の場所へ外出を行っている。他に大型の外出行事もあるが、ふらっと外出を行い、近隣へ出かけることでより多く地域とつながりを持つ機会を増やしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者が少ない。そのため、施設側が立て替えてご本人様が希望するものを購入している。		
		○電話や手紙の支援			

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様に協力して頂き、可能な方のみ実施している。正月には、全員がご家族様に年賀状を送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同スペースには、利用者の作品や季節を感じさせるもの（例えば秋なら外でひろった栗など）を配置し、家庭的な雰囲気を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳場所を設置して、一人になれる空間を作っている。まだ、殺風景であるため、居心地の良い雰囲気を変えるために話あっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の表札を自分で作成して頂いている。ご家族様に協力して頂き、馴染みのものを置いたり、ご本人様が好きなものを置いたりご本人様がくつろげる空間作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	基本的には出来ることは自分でを心がけ、残存機能を維持できるように配慮した支援を行っている。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
			①ほぼ毎日のように

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム白木の郷

作成日 平成 26 年 1 月 9 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・運営推進会議のマンネリ化。 ・地域の方の参加が少ない。	・自治会長などの協力のもと，地域住民の参加を呼びかけていく。 また，地域住民が参加しやすいプログラムを考えていく。	・地域住民への呼びかけ。 ・運営推進会議プログラム変更検討。	1年間
2	13	避難訓練が火災想定でしか実施していない。	災害（土砂災害など）を想定した訓練を行う。	・消防署へ相談。 ・運営推進会議に消防署を招く。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。